

2-17 事故発生！ 再発防止対策の説明が難航

1. 立場と仕事

電力会社の職員として電力線管路を地中に埋設する職務にあった。管路工事中に生じた事故への対応を事故（トラブル）対応チームの責任者として再発防止策検討や社内説明、社外関係者の説得係として実務からマネジメントまでを担当していた。

2. 遭遇した事態

工事中にガス管を切断する事故の発生があった。このような事故を発生させてしまうと、社内での対応および再発防止策検討やガス供給先、警察、消防、ガス事業者への対応が求められ、さらに事後補償の必要が生じた。

このため、相手先に説明を行い理解していただくために、徹底的な原因の分析や丁寧な対応が必要であったが、社内外の関係者への説明・説得が難航して長時間を要することがあった。

3. 対応内容とその結果

スムーズに事故対応を遂行するために、また、何よりも事故再発を防止したい一心で、他の担当者や施工者任せにせず、自ら率先して丁寧な埋設物の事前調査や掘削時の埋設状況確認など対策検討に参画した。また、警察、消防、ガス事業者、ガス供給先など説明・説得で、自ら矢面に立ち説明することが最重要であると判断し関係者への説明にまわった。

聞き手に対しては、自分が最も理解しているものと認識してもらうため、自らが主体（リーダー）となり前面に出て、施工会社と協働で再発防止策を説明した。また、地先への謝罪、工事の再開についても前面に出て説明を実施した。自ら前面に出ることにより発注者としての責任を相手に示し、信頼を獲得することができた。

社内では、次にまた災害が起きないようにするために防止策を施工者と一緒に説明を行った。通常、社内への説明は施工会社から実施するが多いが、自身で説明することで会社担当者としての安全管理姿勢を示すことにより、再発防止対策の理解をいただいた。また、地先の方には自分も事故原因や今後の対策など説明に伺い、発注者としての対応や安全管理体制などについて説明し、工事の再開や再発防止策について理解と協力をいただいた。

このような丁寧な説明を行うことにより、スムーズな工事再開を実現し、施工会社と連携することにより工事災害の連鎖も防止することができた。

同様の災害が起きないようにするために、関係者への水平展開にあたって事故概要や原因、対策などを記したペーパーを配布するとともに、自ら説明して回り事故防止の周知に努めた。

このような事故経験を通じて誰かが行動しないと何事も前に進まないこと、全体を俯瞰して今取るべき行動を瞬時に判断する判断力やリーダーシップ力が必要だと感じた。